

# イオン

## 「イオン スカラシップ」認定証授与式を 7月6日に開催 千葉市内のイオン本社で認定証を授与

イオンは今年7月6日、アジア各国から日本の大学へ留学する学生を対象とした奨学金「イオン スカラシップ」の認定証授与式を千葉市内の同本社で行った。

この奨学金は、アジア各国と日本の未来を担う大学生への経済的支援を通じて、両国の友好関係をさらに深めるため、2006年から実施しているもので、昨年までの7期にわたり、日本では延べ14大学、242名の留学生に支給されてきた。また、国外では2008年から取り組みが始まり、中国8大学、ベトナム4大学、タイ、インドネシア各2大学の合計16大学で合計2100名の奨学生が誕生。



認定証授与後、挨拶を行う留学生

とくに中国の受給者数は清華大学818名、北京大学169名など1980名と群を抜いている。

## 今年14大学、71名に 日本で奨学金を付与

今年14大学、71名が日本での奨学金付与の対象となり、岡田元也代表執行役社長をはじめとするイオン幹部のほか、長澤成次千葉大学理事ら9大学の関係者が出席した認定証授与式で私費留学生42名に認定証が授与された。

各留学生の出身地は中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、ミャンマーなど多岐にわたっており、認定証授与式で挨拶に立った岡田社長は、「アジア各国の政治、経済システム、文化、歴史はさまざまであり、だからこそ、より多くの若い人々がお互いを知ることがアジア地域の平和と発展のために重要だと考えている。留学生生活の中でアンビバレントに感じることも間々あると思う

が、より高い次元で相互理解を深めて欲しい」と学生たちを激励した。

また、続いて行われた懇親会には、水嶋光一外務省大臣官房参事官、キン・マウン・ティン駐日ミャンマー大使館特命全権大使ほか各国の政府関係者やイオンに入社した奨学生OB・OG30名も加わり、会場のおちこちで活発な意見

交換が行われた。

イオンは、同奨学金以外に次代を担う若者への支援として、日本と海外の高校生が互いの国を訪問し、国際的な交流を行う「ティーンエイジ・アンバサダー」事業や、アジア各国での学校建設支援事業等を行っており、友好の輪をさらに拡げて行く考えだ。



懇親会終了後、参加者全員で記念写真撮影